

指揮  
川本 貢司

ピアノ  
三船 優子

2020  
4.5  
sun

# ASA SAO PHILHARMONIC ORCHESTRA



麻生フィルハーモニー管弦楽団 第70回定期演奏会

ベルリオーズ | 序曲『ローマの謝肉祭』  
フォーレ | 組曲『ペレアスとメリザンド』  
ストラヴィンスキー | バレエ音楽『ペトルーシュカ』

会場／多摩市民館大ホール 14:00開場(友の会は13:45) 14:30開演

入場料 全席 1,000円(税込)

チケット  
前売り所

- 電子チケットぴあ <http://t.pia.jp/> ☎0570-02-9999 Pコード 161-676
- 京浜楽器百合丘店 ☎044-966-5121
- マイクタウンチケットセンター(窓口販売/新百合ヶ丘マブレ1F写真工房「彩」内)

主催／麻生フィルハーモニー管弦楽団 後援／川崎市、川崎市教育委員会

◎お問い合わせ ☎044-955-1953(横須賀) ◎麻生フィル公式サイト <http://asaophil.org/>

## プロフィール



指揮 **川本 貢司**  
Koji Kawamoto

- ◎第10回東京国際音楽コンクール指揮部門 第3位(22歳)
- ◎第59回「ブラハの春」国際コンクール指揮部門 第3位
- ◎2001年~2007年/フォアボンメルン歌劇場第一専属指揮者 北東ドイツ・フィルハーモニー管弦楽団首席指揮者
- ◎2008年~2014年/ビルゼン放送交響楽団(チェコ)音楽監督

島根県生まれ。2001年よりドイツを拠点に国際的な指揮活動を展開し、正統的な音楽語法を踏襲しつつ、現代的な感性と明晰な解釈で歌い上げる斬新で透明感ある演奏スタイルは、海外においても高い評価を確立している。第10回東京国際音楽コンクール指揮部門に22歳の若さで入賞。第59回「ブラハの春」国際音楽コンクール指揮部門において第3位。2001年から2007年、フォアボンメルン歌劇場第一専属指揮者ならびに北東ドイツ・フィルハーモニー管弦楽団首席指揮者を兼任。2008年から2014年、チェコにおける初の日本人音楽監督としてビルゼン放送交響楽団を指揮。

また、スロヴァキア・フィルハーモニー管弦楽団、プラハ放送交響楽団などの名門オーケストラを筆頭に、チューリッゲン・フィルハーモニー管弦楽団、ヴェルツブルク・マインフランケン歌劇場、スロヴァキア放送交響楽団、オントリオ・フィルハーモニック、クラスノヤルスク交響楽団、ドニプロペトロフスク国立フィルハーモニー管弦楽団、イスタンブール国立交響楽団、マラガ交響楽団など、欧州、北米・南米、ロシア、アジアの50以上のオーケストラを指揮し、現在に至るまで客演を重ねている。国内においては東京フィルハーモニー交響楽団、札幌交響楽団、京都市交響楽団、仙台フィルハーモニー管弦楽団、広島交響楽団等、各地のオーケストラと共演。近年は、2013年4月の浙江交響楽団との共演を契機に、中国においても非常に高い評価を確立し、深圳交響楽団、西安交響楽団、青島交響楽団、河北交響楽団、貴陽交響楽団、福建省歌劇場をはじめ、中国全土で日本人指揮者としては類を見ない数の客演を重ねている。

東京芸術大学音楽学部指揮科を卒業。在学中に指揮法を若杉弘、小田野宏之、速藤雅古、フランシス・トラヴィス、学内のマスタークラスにおいてヴァレリー・ゲルギエフ、セルジュ・チェリビダッケ、渡米後にグスタフ・マイヤーの各氏に師事。生涯の師と仰ぎ、最も影響を受けた指揮者であるシャルル・デュトワ氏からは、リハーサルに帯同する許可を受け、2009年より世界各地で巨匠より直々に薫陶を授かり「音の魔術師」の神髄を会得する。近年はさらに活躍の場をを広げ、2017年9月にサントリーホールにて「日タイ修好130周年記念・王立バンコク交響楽団日本公演」を指揮し、聴衆のみならず両国関係者から高い評価を受け、2018年8月の定期公演に招聘。再び好評を博す。また、2018年9月には南米、チリ共和国コンセプション交響楽団の定期公演を指揮し、大成功のうちに南米デビューを果たす。再演を熱望され、早くも2019年10月に再共演の予定である。



ピアノ **三船 優子**  
Yuko Mifune

幼少期をNYで過ごし、市村光子、ジェローム・ローエンタールに師事。帰国後、井口秋子、奥村洋子、安川加寿子に師事。桐朋学園大学在学中、第57回日本音楽コンクール第1位。同大学を首席卒業後、文化庁派遣研修員としてジュリアード音楽院へ留学、マーティン・キャンニン、室内楽をサミュエル・サンダースに師事。フリーナ・アワーバック国際ピアノコンクール、ジュリアードソリストオーディションで優勝。モスクワ交響楽団、パリ・ギャルド・レピュブリケーヌ吹奏楽団等との日本ツアーをはじめ、内外の主要オーケストラと共演。韓国、ニュージーランド、トルコ他、その活動は海外にも及ぶ。ラジオのパーソナリティ、また2003年より6年に亘りNHK-BS「週刊ブックレビュー」の司会を務めるなど、メディアでも活躍。これまでにアルバムも多数発表、いずれも好評を博す。監修・演奏を務めたピアノ教則本「DVDですぐわかる かんたんピアノの弾き方」(成美堂出版)、全180曲8枚組CD「きらきら☆ピアノ」[Yuko plays Gillock] (ビクターエンタテインメント)なども高評価を得て、子供ワークショップやアウトリーチ活動にも力を注いでいる。近年はドラム・パーカッションの根越彰と「最小にして最大のオーケストラ」と称するクラシックユニットOBSESSIONで新境地を開き、さらにファン層を広げている。

バロックから現代作品までレパートリーは広く、シャープなタッチからは、気品と色彩感にあふれた音色が放たれる。華のあるダイナミックな演奏で聴衆を魅了しつづけ、2019年にはデビュー30周年を迎えた、日本を代表するピアニストのひとりである。

京都市立芸術大学非常勤講師。(オフィシャルHP) <http://www.yukomifune.com>

## 聴きどころ

70回の節目となる今回の春の演奏会では、海外でも幅広く活動される指揮者、川本貢司氏を招聘し、ベルリオースのローマの謝肉祭、フォーレのペレアスとメリザンド、そしてメインプログラムでは第一線で活躍のピアニスト、三船優子さんをソリストにお招きしてストラヴィンスキーのベトル

ーシュカ(1947年版)を取り上げます。このベトルーシュカ(1947年版)という作品は、ストラヴィンスキーのバレエ音楽の中ではシンプルでドライな印象が強く、全体にオーケストレーションが薄い部分が多い、ソリストティックな楽曲です。管楽器には登場人物を表現するモチーフがソロで多用され、とてもカラフルです。バレットであるベトルーシュカのバレリーナへの

優く報われぬ恋、ムーア人の優越や魔術師の禍々しさ、ファンタジックな面とロシアの謝肉祭の喧騒感、そういったモチーフを客席にお伝えできたら幸いです。

麻生フィルハーモニー管弦楽団  
インスペクター 山崎 学哉

## 麻生フィルハーモニー管弦楽団

当楽団は、麻生区が誕生して間もなくの、1983年に発足いたしました。創立にあたっては地元の演奏家のみならず、プロの演奏家の方々にもご尽力いただき、以来、企画から運営まですべてを団員で行い、長きにわたり地元に根付いた活動を積極的に続けています。1996年には「川崎市文化賞」を受賞し、2013年には創立30年を迎えました。

年2回の定期演奏会と麻生音楽祭のファミリー

コンサートへの参加を中心に、最近では4年に1度の「かわさき市民第九コンサート」や、夏の「ミュゼ川崎市民交響楽祭」など、活動の場を広げています。

団員は100名を超え、年齢層は幅広く、活気に溢れています。その多くは麻生区および周辺の在住ですが、遠方から通う団員も多く在籍し、皆が熱意をもって活動に取り組んでいます。

創立以来、音楽監督や常任指揮者は置かず、演奏会ごとに諸先生方のご指導をいただき、常に前進を続けております。プロの演奏家による技術指導にも恵まれ、毎回練習時の出席率が非常に良いのも特徴です。

■公式サイト <http://asaophil.org/>

Access 多摩市民館 大ホール  
JR南武線登戸駅下車徒歩10分。  
又は小田急線向ヶ丘遊園駅北口下車徒歩5分  
※お車でのご来場はご遠慮ください。



※小さいお子様をお連れの場合は、他のお客様のご迷惑にならないようご協力をお願いします。